

「（仮称）宮っ子の誓い」の方針等に関する主な意見

1 方針

- (1) 子どもが理解しやすく、自らが主体的に取り組める内容
- (2) 子どもが未来に夢や希望を持つことができる内容
 - ・子どもの視点を大切に「こうありたい。」という部分を強調したほうがいい。
 - ・子どもが「なるほど」と思える内容にしていきたい。
 - ・子どもの目線から作った「宮っ子の誓い」が必要である。大人も子どもから教わることが多い。
- (3) 大人と子どもが共に実践できる内容
 - ・ルールやマナーが身に付いていない親も多いので、子どもが親と実践できる内容であるといい。
 - ・家庭でのコミュニケーションを推進し、「一緒に」活動できるような表現が望ましい。
 - ・市民憲章のように、機会あるごとに唱和でき、大人と子どもが共通認識して「和」をつくれるような内容がよい。
- (4) 他人や自然、社会など、他とのかわりを十分盛り込んだ内容
 - ・インターネット、メール、携帯電話などがコミュニケーションのツールとなっているが、対人コミュニケーションを推進できるようにしていくことも大切である。
 - ・集団を形成しても、自分をうまく表現できない子どもが多い。特異なものを個性と受け止めて、コミュニケーションを図れるようになって欲しい。
 - ・「考える力」「伝える力」「見通しを立てる力」なども必要な力ではないか。
- (5) 幼児期から青年初期までを包括する幅広い内容
 - ・幼児期から青年初期までの子どもたちが口ずさめるような幅広い内容がポイントとなる。
- (6) 本市の歴史や地域性に基づき、宇都宮市民としての誇りをもてる内容
 - ・「あいづっこ宣言」のように地域の特色を出すことができると、宇都宮市ならではの「誓い」になるのではないか。
 - ・地域に誇りをもつことができるような心を育成したい。
 - ・宮っこの特色を出す内容であることは大切である。
 - ・小学校や中学校の卒業に伴い、子どもが地域とのつながりが希薄になる場合が多いので、地域との絆を深められるような工夫が必要である。

2 内容

- (1) あいさつなど心を通わせる力
 - ・「おはよう」「おやすみ」など、親から身近なあいさつを率先し、できることから行っていくことが大切である。
 - ・家庭でのコミュニケーションを推進し、「一緒に」活動できるような表現が望ましい。
 - ・対人コミュニケーションを推進できるようにしていくことも大切である。
- (2) ルールやマナーの定着
 - ・ルールやマナーが身に付いていない親も多いので、子どもが親と実践できる内容であるといよい。

- ・ルールや規範意識など、これまで当たり前であったものが、少しずつ変わってきているのではないかという危惧を抱いている。

(3) 地域を愛する心

- ・小学校や中学校の卒業に伴い、子どもが地域とのつながりが希薄になる場合が多いので、幼児期から青年期までがつながり、地域との絆を深められるような工夫が必要である。
- ・子どものころに「地域を愛する心」をしっかりと育てていないと、大人になってからでは身に付かない。

(4) 目標実現に向けて粘り強く取り組む姿勢

- ・「考える力」「伝える力」「見通しを立てる力」など子ども自ら積極的に行う力も必要ではないか。

3 形式

(1) 趣旨や地域の特色などを説明する前文の設置

- ・制定の趣旨や地域の特色などを盛り込んだ前文を設けてはどうか。

(2) 市民の記憶に残る3～5つ程度の項目設定

- ・内容を限られた文字数の中でどう盛り込むかが課題である。市民憲章制定時、5項目では忘れてしまうので3項目に絞った経緯がある。
- ・形式としては、3～5項目程度で覚えやすく、親しみやすいものにしてはどうか。

4 表現

(1) 市民全員で親しめ、子どもに分かりやすい表現

- ・日常生活の中で口ずさめるようなものが大切である。
- ・それぞれの家庭が特色ある人づくりをすること、高齢者の知識を伝授していくこと、市民憲章の活用を行うこと、立志式に口ずさむような内容にすること、などを「宮っ子の誓い」のポイントとして考えている。

(2) 子ども自身が行動をイメージでき、自身で評価できる表現

- ・表現は、子どもの意識に残るようなものにしたい。
- ・「～したい。」という表現などが、子どもの心に響くのではないか。
- ・省くものは省き、実効性のあるものすることが求められる。

5 活用方策

- ・地域活動を行う際に機会があるごとに唱和でき、大人と子どもが共通認識して「和」をつくれるような内容とする。
- ・立志式など学校行事の際に、口ずさめる内容とする。
- ・学校には学校教育スタンダードや食育、学校目標などのスローガンがたくさんあるので、日常生活の中で口ずさめるようなものがよい。
- ・子どもは、親を見て行動している。まずは、親から身近なあいさつを率先し行うなど、できるところから行っていくことが大切である。
- ・大人と子どもが共に「宮っ子の誓い」を実践することにより、人づくりが推進されていることになると考えている。

盛り込むべき内容について

宇都宮市民としてのあるべき姿

○宮っこ未来ビジョンにおける人づくり

◆自己実現

- ・意志力
- ・**忍耐力**
- ・粘り強さ

◆思いやり・共生

- ・あいさつ
- ・コミュニケーション能力
- ・生命尊重

◆きまり遵守

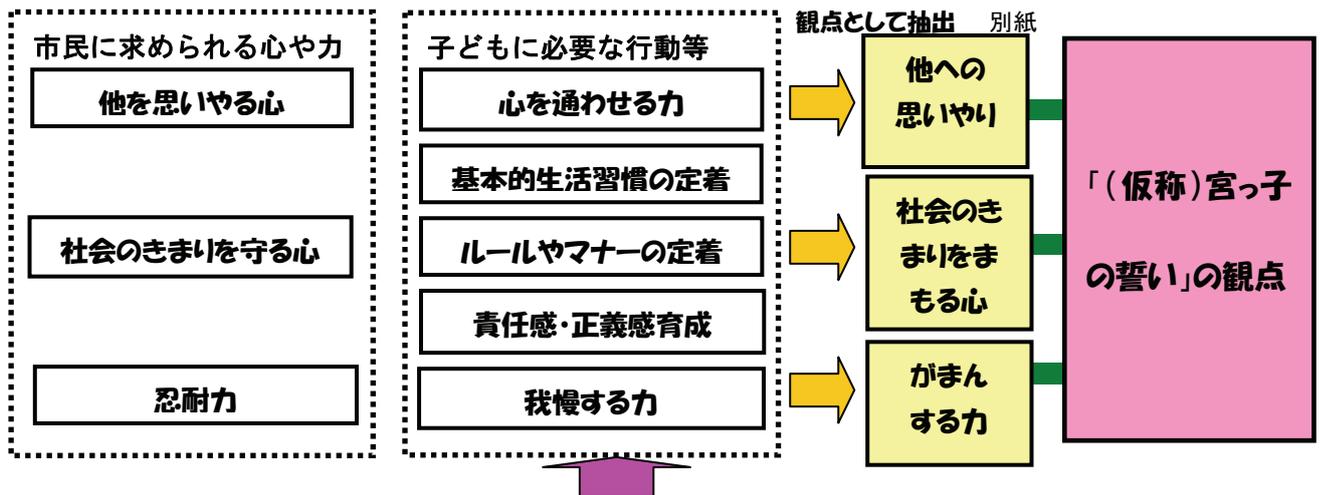
- ・社会のルール遵守
- ・基本的な生活習慣定着
- ・社会の一員としての自覚

○宇都宮市の人づくりの取組

〈宇都宮市民憲章〉

- 1 健康で、**心のふれあう**明るいまちをつくれます。
- 2 **きまりを守り**、活気あふれる楽しいまちをつくれます。
- 3 学ぶことを大切に、文化の薫る美しいまちをつくれます

※ 人や社会と共生するために必要な項目を



子どもの現状と保護者等の願い

○子どもの現状と課題

◆身についていないと考えている力

- ・ルール・マナーなど社会の中で生きる力
- ・公共施設などを大切にする力
- ・社会の人などと対話するなどして**心を通わせる力**
- ・苦しいことなどがあっても**我慢する力**

◆身についていると考えている力

- ・家族を大切にする心
- ・あいさつする姿勢
- ・命を大切にする心
- ・お年寄りや小さな子どもに対する**思いやりの心**

○保護者や地域等の願い

- ・あいさつの定着
- ・社会性や思いやりの心の育成
- ・**基本的な生活習慣**の定着
- ・**責任感・正義感**の育成
- ・**忍耐力**の向上

制定の観点抽出までの考え方

宮っこ未来 ビジョン		宇都宮 市民憲章	意識調査		地域教育力 向上 フォーラム	観点
			身に付いて いない	身に付いて いる		
自己実現	○意志力 ○忍耐力 ○粘り強さ	—	○がまん する力	—	○忍耐力育成	○がまんを する力
	○あいさつ	—	—	○あいさつ をする姿 勢	○あいさつの 定着	○他への思 いやり
	○コミュニ ケーショ ン能力	○心のふ れあい	○対話など 心を通わ せる力	○家族を大切 にする心 ○お年寄りや 小さな子ど もに対する 思いやり	○社会性や思 いやりの心 育成	
思いやり・共生	○生命尊重	—	—	○命を大切 にする	—	
きまり遵守	○社会のル ール遵守	○きまり を守る	○ルール・ マナー ○公共施 設	—	—	○社会のき まりを守 る心
	○基本的生 活習慣	—	○整理整 頓	—	○基本的生活 習慣定着	
	○社会の一 員として の自覚	—	—	—	○責任感, 正 義感の育成	

○人や社会と共生するために必要
な項目を抽出
○類似項目については統合

うつのみやの藩校のきまり〔修道館の規則〕

1 修道館概要

建設：安政 5 年（1858 年）に宇都宮藩校として建設
 施設：武術道場，弓術場，学館等
 課目：1 等から 3 等に応じた大学，中庸，論語などを教育

2 修道館規則

原文	要旨	キーワード
○齒を尊び，礼儀を習う。	○年上を敬い，礼儀を習いましょう。	礼儀
○およそ学生館中において長幼の序をなすは，もち論といえども，すでに仕者は，自らその等級にあり，そのいまだ仕えざる者は，よろしく本分によって，長幼を序すべし。	○年上や身分が上の人を敬いましょう	礼儀
○およそ生徒は，毎朝 5 鼓を以て入館し，各まず脱刀し，教官に拝謁した後，各まず後，坐につくべし	○時間を守って，刀をはずして先生に礼をしてから座りましょう。	基本的な生活習慣
○坐せば必ず端正にして，参差をなすなかれ	○座ったら，姿勢をよくして，散らばらないようにしましょう。	礼儀
○傲慢するなかれ	○おごったり怠けたりしないようにしましょう。	勤勉・努力
○喧嘩するなかれ	○けんかしないようにしましょう。	思いやり
○戯嬉するなかれ	○遊びたわむれるのはやめましょう。	勤勉・努力
○席次は毎日入館の順序を以てすべし	○入館順に席に着きましょう。	規範意識
○つねに虚心以て己れの益を受くべし	○いつも素直な心で，自分のためになるような学習をしましょう。	誠実 勤勉・努力
○賢を挟むなかれ，長を挟むなかれ，故を挟むなかれ	○知ったかぶりをしたり，年上だからといばったり，因習にとらわれたりするのはやめましょう。	勤勉・努力 謙虚 創造性
○業終りて則ち拝をなし，刀を挟みて而して退く。	○授業が終わったら，すぐに礼をして，刀を差して帰りましょう。	礼儀



礼儀，思いやり，勤勉・努力

「宮っこ未来ビジョン」のライフステージ別行動目標

観点	行動目標			キーワード
	幼児期	少年期	青年初期	
① 他への 思いやり	【思いやり・共生】			【対象】 ・友達 ・社会の人々 ・外国人の人 【行動】 ・交流 ・触れ合い ・あいさつ ・正しい言葉遣い ・責任を持った行動 【内面の変容】 ・友人関係構築 ・集団の一員としての自覚と責任 ・共生の姿勢
	○遊びの中で、 <u>友達と触れ合い</u> 、けんかをしたり仲直りをしたりしながら、 <u>より良い友達関係をつくり</u> ます。	○自然や社会の人々と <u>触れ合い</u> ながら、自然の偉大さ、人の温かさを知り、 <u>自然や集団の一員としての自覚と責任</u> をもちます。	○ <u>国を超えた人々との交流</u> などにより、日本の素晴らしさや今後のあるべき姿を認識するとともに、「異なること」を受容し、 <u>共に生きようとする姿勢</u> を身に付けます。	
② 社会の きまりを 守る心	【きまり遵守】			【行動】 ・基本的な生活習慣 ・学校や地域のルール遵守 ・モラルの実践 【内面の変容】 ・きまりを守る ・法令遵守
	○「起床」「食事」「睡眠」などの <u>基本的な生活習慣</u> を身に付けます。 ○家庭や幼稚園・保育所の <u>きまり</u> を守ります。	○学校や地域の <u>ルール</u> を守り、 <u>他人に迷惑を</u> かけないようにします。 ○交通規則など、 <u>法令遵守の必要性</u> を自覚し、進んで守るようにします。	○地域よりさらに大きな「社会」を考え、身近な「 <u>モラル</u> 」から実践します ○ <u>道路交通法や刑法</u> などの <u>法令</u> を遵守します。	
③ がまん する力	【自己実現】			【行動】 ・手伝い ・最後まで遂行 ・繰り返し挑戦 ・振り返り ・表現・実践 【内面の変容】 ・改善策を考える ・勤労観
	○進んで家事などを <u>手伝い</u> 、 <u>最後までやり遂げ</u> ます。	○様々な課題に <u>繰り返し挑戦</u> し、 <u>自分の特徴や可能性</u> について考えます。 ○自己の行いを <u>振り返り</u> 、 <u>改善策</u> を考えます。	○自分が正しいと信じて進んで <u>表現・実践</u> し、結果に対しては、 <u>改善策</u> を考えます。 ○地域の <u>大人との交流</u> により、 <u>望ましい勤労観</u> を身に付けます。	



具体的な文言案

- ①他への思いやり・・・【対象】【行動】【内面の変容】から文言を制定
- ②社会のきまりを守る心・・・【行動】【内面の変容】から文言を制定
- ③がまんする力・・・【行動】【内面の変容】から文言を制定